

# <授業改善事例>知的障害教育部門の自立活動の指導の充実(2)

自立活動部の言語指導担当教員による指導や、評価・指導をふまえた連携



## ① 現状



知的障害教育部門  
Aさん

上手にしゃべることが苦手なので、先生や友達にうまく伝わらないな。

Aさんは、伝えたいことがたくさんあるのですが、言葉が聞き取りにくいことが多くて……。どのようにすれば、コミュニケーションの力を付けることができるでしょうか。



知的障害教育部門  
B先生

肢体不自由教育部門の自立活動部の言語指導担当のD先生がコミュニケーションのことや、構音のことに詳しいですよ。アドバイスしてもらったらどうですか？



肢体不自由教育部門  
C先生

## ② 自立活動部の教員による指導、評価、相談



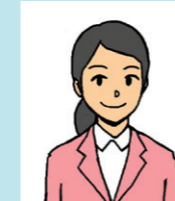
言語室では？

自立活動部では、言語室を利用して、主に人との関わりや、認知・理解、コミュニケーション、意思表示、構音、摂食・嚥下等に関わる内容などをテーマに相談しています。



### 【言語室にある検査】

WISC-III、IV、新版 K 式 2001、K-ABC、DN-CAS、NC プログラム、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、S-S 法言語発達遅滞検査、構音検査、絵画語彙発達検査(PVT-R)、ITPA、質問応答関係検査、PEP-R、フロスティッグ視知覚発達検査、抽象語理解検査、レーヴン色彩マトリックス検査など



自立活動部言語指導担当  
D先生

- ◆ 心理発達検査や、指導をふまえた形成的評価を基に、何が得意で何が苦手な側面なのか、児童生徒の特性を整理しましょう。
- ◆ 今後の学習に向けて、活かしていくとよいところや配慮が必要なことなどを明らかにして指導をしていきましょう。

## ③ 言語指導担当教員との連携による指導

豊富な指導法、教材により、個に応じた指導が展開されます。また、担任も一緒に参加することで、日常の指導でも取り組めるようにしています。



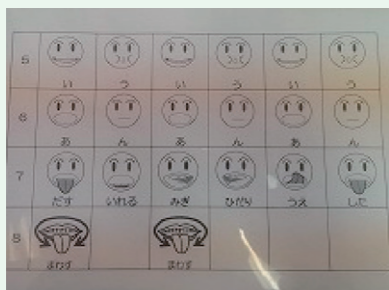
言語の時間終了後は、必ず担任に対して指導内容と評価をフィードバック。



教室でも個別の時間に再学習。



## ④ 連携のポイントとその効果など



- ◆ 発声の際に音を作り出すために必要なポイント
  - ① 相手の音に注目し、聴く力、相手の音を聞き分ける力、周囲の大人の出す音の見本に合わせて、音を修正する力が必要であること。
  - ② 呼吸の安定、呼気のコントロールする能力（楽に呼吸できる姿勢）が大切で、文章を話すには、5～10秒続けて息を吐き出すことが必要となること。
  - ③ 音を作るために必要な器官を早く正確に動かし、安定させる力を付けること。

言葉を引き出すための口や舌の動きの練習を、教室でも継続して行っています。ゆっくりと話すようにするとAさんも伝わりやすいことが分かってきたので、自信をもって話しかける場面が多くなりました。

# <授業改善事例> 視覚障害教育部門の自立活動の指導の充実

知的障害教育部門の教員の助言を活用し、姿勢の改善を行うことで集中力を高める



## ① 視覚障害教育部門の児童



Aさん  
(視覚障害教育部門)

「正しい姿勢で座りましょう」と先生に言われるけど、疲れてしまうんだ。だから、長い時間椅子に座って勉強するのは苦手だな～。



担任のB先生  
(視覚障害教育部門)

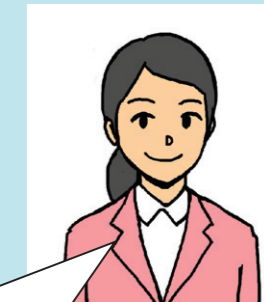
身長が伸びてきたことで、これまで以上に身体全体のバランスが取りにくくなってきています。  
椅子に座っているときは、背中を丸めて下を向いてしまい、学習に集中できないことが多いので、姿勢を保持できるようにしたいです。  
また、つま先を前に向け足裏をしっかりと床に付けて歩くようにするにはどうしたらよいでしょう。

## ② 知的障害教育部門の教員のアセスメント

【Aさんの個別指導計画から】

- ①全盲（視力不明）、未熟児網膜症
- ②脳性まひ
- ③肢体不自由
- ④股関節が開いている。
- ⑤移動時、左右に揺れながら外反で歩く。
- ⑥座位時、背中を丸める。
- ⑦過敏である。

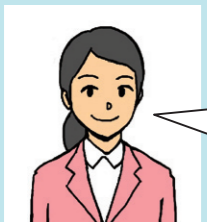
C先生  
(知的障害教育部門)



Aさんは脳性まひにより、身体のバランスや協調した動作が難しくなっています。そのため、歩行が不安定だったり、姿勢を保持することが難しいんですね。細かな手指の操作など、正確な協調を必要とする動きも苦手ではないですか。

## ③ 知的障害教育部門教員からの感覚統合のアドバイス

月2回、自立活動や体育の時間の45分間、視覚障害教育部門の教室等にて、C先生から感覚統合の指導を受けることにしました。



姿勢を保持するためには、筋力はあるか、バランスはとれているかといったことが重要です。Aさんの場合は、両足の内側の筋力を高める必要がありそうです。  
体幹を保持できるようにするために、知的障害教育部門の自立活動の指導で使用している用具の中から、ピーナッツバレーンやキャンディーボールを使ってみましょう。



ピーナッツバレーン



キャンディーボール



## ④ 連携のポイントとその効果など



正しい姿勢で座れるようになったって褒められたよ！  
バランスの取り方も上手になったので、歩くときも楽になってきました。

姿勢が改善され、まっすぐに歩けるようになりました。  
また、まっすぐ座ることができるようになって、課題に集中して取り組めるようになりました。



筋力とバランス感覚を高めることで体幹が保持でき、正しい姿勢で歩いたり座ったりできるんですね。  
両足でボールを挟んで保持する課題は、落とすと分かるように音が出るボールを用いるなど、助言を基に、視覚障害のあるAさんの実態に応じた指導を継続して行っていこうと思います。